



池田小学校 創立150周年記念式典

今年には創立150年を迎える小学校が数校あります。5月26日、その中の1つの池田小学校（西区池田1丁目）の記念式典にお招きいただき実行委員長、校長先生のあとに祝辞を述べる機会を頂戴しました。

本日は池田小学校創立150周年記念式典が全校生徒の皆さん、そして校長先生はじめ先生方、さらには地域をお支えていただく各種団体の役員の方皆さんお揃いの中で盛大に挙行されますこと、心からお祝いを申し上げます。

池田小学校は150年の長きにわたり地域の中心、そして教育の拠点として多彩な人材を数多く輩出してこられました。そこには、時代の変遷や移り変わる社会のニーズに応えながら、一貫して子供たちの教育に取り組んでこられたことが背景にあると思います。

子どもたちへの教育はまさに未来への投資であり、その礎を築くには先生方や地域の皆さんの協力・理解がなければ到底なし得るものではございません。今後とも池田小学校の伝統、文化、精神を受け継ぎながら、160年、200年とさらに飛躍を遂げていただきますようご祈念を申し上げます。生徒の皆さん、今日はただお祝いをするだけでなく、これからの池田小学校がどうあるべきかみんなで考える大切な一日です。いずれ皆さんは小学校を巣立っていきますが、池田小学校で学んだ、卒業したことに自信と誇りを持って堂々と歩んでいただきたいと思えます。

結びに今日の記念式典を企画、運営していただいた実行委員長はじめ役員の方々に敬意と感謝を申し上げます。祝辞とい



※式典終了後、運動場に移動してバルーンリリース（風船飛ばし）を全校生徒はじめ参加者全員で行いました。『池小ファイブ』の合図を機に手を離れた色とりどりの風船が空一面にふわふわ飛んでいく様子を見て大きな歓声が飛び交い、いっぱい笑顔に包まれました。と同時に池田小と子どもたちの前途洋々たる未来を確信したのでした。



『耐震強化岸壁』着工式

6月8日、熊本港で行われた『耐震強化岸壁』の着工式に出席しました。



【経緯】
2016年に発災した熊本地震の際、熊本港は岸壁の一部が破損して支障物資を運ぶ大型船が接岸できずに別府港や大分港にまわって着岸して搬送せざるを得ませんでした。

【目的・効果】
今後、熊本港はTSMC稼働後を見据えて、コンテナ取扱量の増加が見込まれます。そこで地域経済を物流面から支えて貢献するとともに、大規模災害発生時に緊急物資輸送の物流の機能を維持するために今回、整備することになりました。

【課題】
熊本港をさらに有効活用するためには、港へのアクセスを改善しなければなりません。熊本西環状道路の一刻も早い全線開通と九州自動車道との接続を実現するために取り組んでまいります。

御幸小学校 交差点

一般質問の際、熊本市の5つの区の人口推移を調べました。すると東・中央区は横ばい、西・北区が減少、唯一増加しているのが南区でした。あくまで私の肌感覚ですが、中でも御幸校区の木部バス停周辺には近年新築住宅が立地し、南区増加の一因になっている気がします。

新しい住宅が増えると子育て世代が移り住み、子どもたちが増加します。すると新たな課題も浮上します。とそんな折、2月に木部町にお住まいの保護者の方から、子どもの登下校の危険箇所について相談がありました。

早速、朝の登校の時間帯に現地に行きました。指摘された交差点は通勤時間でもあり、バス道路を歩き交う車輦と小学校の狭い道からバス道路に出ようとすると車輦、そこに登校する子どもたちの一団で短時間の間にもヒヤヒヤする場面が何度もありました。

見守る校長先生や保護者の皆さんから事情を聞いた上で警察はじめ関係機関に調査、改良を依頼したのです。その結果、5月末に少しでも子どもたちの安全を確保するため曲がり角部分に赤白ポールが設置されました。



※その後、住民の方から「交差点を強調するカラー舗装ができないか」との声があり、梅雨明けを見計らって塗装する予定です。(7月18日現在)

城南町・隈庄小学校

5月末、南区で明らかに人口が増えている城南町の隈庄小PTAから通学路について相談がありました。早速現地に行くと、問題の場所は長年の懸案が解消し、拡幅工事が進められています。ご覧のようにボトルネック状態になっています。

そのため子どもたちの登校時、小中学生が一気に集中し道路に溢れていること。同時に多くの通勤車輦が走行して危険なことから、何かしら工夫ができればいかとのことでした。

そこで後日、改めて関係機関と一緒に調査しました。その結果、**通学路の入り口部分のフェンスを移動させる**ことで、子どもたちが一時滞留できる用地を確保したのでした。

